教員養成校におけるソルフェージュ授業の実践
ー ピアノと音楽に対する受講生の意識の変化 ー

田中 真紀子

Practice of Solfege Class in Teacher Training College
- Change of in Students Consciousness to Piano and Music -

TANAKA, Makiko

要旨
ピアノ初心者や音楽に対して苦手意識を持っている学生，及び，幼少期に音楽に触れる機会が少なかった学生に対し，ピアノ授業と並行してソルフェージュ教育の場を設けた。ソルフェージュ教育の効果を把握するために，ソルフェージュ授業開始時の授業第１回目，授業第６回目，そして授業終了後の計３回にわたって，ソルフェージュ授業受講生の意識調査を実施し，その結果をそれぞれ分析してみた。ソルフェージュ授業受講生の多くは，ソルフェージュ授業開始時にピアノ授業に関する学修意欲が低く，ピアノやソルフェージュの学修に対して不安を持っていたが，ソルフェージュ授業に参加することにより，音楽の基礎力や学修意欲が高まり，学びへの意識が高いまま保持されることが明らかになった。

キーワード
ピアノ，音楽，ソルフェージュ，意欲，教員養成校

１．はじめに

ピアノは，子どもの感性を育むために保育や教育の現場で必要とされている。そのため，多くの教員養成校がピアノ実技の授業を必修科目として設置している。しかし，教員養成校に入学してくる学生の多くはピアノ初心者であり，平井(2016) が「教員養成課程の学生に対する指導においては，ピアノや歌の技能習得に限らず，音楽に関しての基本的事項から確認しながら授業を進めることが肝心である」と述べているとおり，音楽の“基礎的な”学修が必須である。

そこで，本研究では，ピアノ初心者や音楽に対して苦手意識を持っている学生，及び，幼少期に音楽に触れる機会が少なかった学生向けに楽譜を読むことを中心とした基礎訓練であるソルフェージュ授業をピアノ授業と並行して実施する。ソルフェージュ授業により学生の技能や学修意欲等が向上することが考えられる。音楽の基礎力を高めることで，ピアノや音楽に対する学生の意識がどのように変化するか調査を行い，ソルフェージュ授業との関連性を検証してみたい。

２．問題と目的

Ａ県Ａ大学の新入生に占めるピアノ初心者の割合が年々増加するなか，当然のことながら，ピアノの授業を受ける前からピアノを弾くという行為に対して苦手意識を持ち，練習意欲や学修意欲が低下してしまう学生が増加している。小学校及び幼稚園教員をめざす学生への調査で，畠澤(2012) は「小学校で学ぶべき知識・理解事項の音符，休符，諸記号(約40事項) の音楽用語について調査をした。その結果，すべての用語名や意味を理解している学生は３割ほどで，中でも女子学生に比べて男子学生の理解程度が特に低かった」と報告している。ピアノ初心者の割合の増加に加えて，小学校で学ぶべき知識・理解事項が不足している学生が多くなっており，ピアノの単位を取得することが難しい状況に陥っている。よって，A県A大学ではそのような学生をできるだけ生み出さないために，対策を講じることにした。

その対策として，ピアノ初心者や音楽に対して苦手意識を持っている学生，及び，幼少期に音楽に触れる機会が少なかった学生に対して，ソルフェージュ教育の場を設けることとした。ソルフェージュ教育とは，西洋音楽の学習において楽譜を読むことを中心とした基礎訓練のことである。音楽を感じる力や聴く力，音感やリズム感，読譜力など，ピアノに限らず，全ての音楽に共通して役立つ能力を様々な音楽体験を通して身に付けていくものである。ソル

フェージュ教育を指導する教師について，河合(2002)は「ソルフェージュ教師の現実であり，また理想とする指導目標は，能力・感覚の各基本要素の習得に主眼を置こうとしているものである」と報告しているとおり，日本においても音楽の基礎訓練としてソルフェージュ教育が広がりつつある。学生が音楽の基礎力を高めながら，音楽は本来楽しいものであるということを実感できるようなソルフェージュ授業に参加することにより，ピアノや音楽に対する意識がどのように変化するのか，そしてその変化がピアノに対する練習意欲や学修意欲の向上に役立つのかどうか分析することが小論の目的である。

３．研究方法

【調査対象】

Ａ県Ａ大学2018年度の新入生90名のうち，ピアノ初心者や音楽に対して苦手意識を持っている学生，及び，幼少期に音楽に触れる機会が少なかった学生33名。

【調査時期】

2018年４月～７月。

【方法】

全９回のソルフェージュ授業をピアノ授業と並行して実施する。ソルフェージュ授業では，スライドホイッスルや大型の鍵盤図，音符カード，打楽器類などを使用する。各回の主な到達目標は表１のとおりである。

表1　ソルフェージュ授業の到達目標

回数	ソルフェージュ授業の到達目標
1	音の高低を感覚的に捉える
2	音の高低と鍵盤との関係を知る
3	鍵盤と楽譜，音の並びの関係を知る
4	拍子の感覚を身につける
5	拍子と音価を理解する
6	和声を感じる，運指の訓練
7	音符の理解，リズムの理解
8	ゲームで音符と休符の理解を深める
9	読譜力を高める

音楽に関する意識調査を，質問紙法で，ソルフェージュ授業受講生33名に対して実施することにした。調査は１年次春学期，ソルフェージュ授業開始時の授業第１回目，ソルフェージュ授業中間の授業第６回目，そしてソルフェージュ授業終了後の計３回にわたって実施した。

調査内容は，(1)入学時の実態，(2)音楽に関する意識，(3)ピアノの必要性に関する意識，(4) ソルフェージュに関する意識，(5) ピアノに関する意識，(6) ソルフェージュ授業に関する意識についてである。回答方法は，(1)は「①はい，②いいえ，③決めていなかった」，「①はい，②いいえ，③決めていない」，「①はい，②いいえ」，「①はい，②いいえ，③わからない」で，(2) から(6) は「1.まったく思わない，2.思わない，3.どちらでもない，4.思う，5.とても思う」の５件法で実施した。全ての音楽に共通して役立つ能力を様々な音楽体験を通して身に付けることを目的とするソルフェージュ授業に参加することにより，ピアノや音楽に対する受講生の意識がどのように変化するのか調査を行うと同時に，意識との関係について分析を行った。

４．調査結果

意識調査は，計３回(実態調査は第１回目のみ)実施した。有効回答数は，３回とも33名であった。

第１回目の意識調査は，ソルフェージュ授業開始時の2018年４月に実施した。ピアノを習った経験に関する質問項目では，「①はい，②いいえ」から，ピアノを習っていた期間については，「①０年，②１年，③２年，④３年，⑤４年，⑥５年，⑦６年以上」から回答を求めた。「ピアノを習っていた期間」は，「①０年」が52%，「②１年」が９%，「③２年」と「④３年」が15%，「⑤４年」と「⑥５年」が０%，「⑦６年以上」は９%であり，習った経験があるのは48%であった。「現在，ピアノを習っている学生」は12%で，88%が「②いいえ」と回答した。意識調査によると５割以上の学生が過去にピアノを習った経験のないピアノ未習者であった。

音楽に関する意識調査は，「1.まったく思わない，2.思わない，3.どちらでもない，4.思う，5.とても思う」の５件法で回答を求めた。「4.思う」と「5.とても思う」の合計は，ピアノの必要性に関する意識の質問項目の「29 ピアノは，現場で必要だ」では94%，「30 ピアノは，採用試験で必要だ」では79%，「31 ピアノは，子どもの学びに必要だ」では91%，「32 ピアノは，音楽の授業に必要だ」では88%，「33 ピアノは，保育者養成校の授業に必要だ」では94%となっており，ピアノ未習者を含めた８割以上の学生が保育や教育の現場ではピアノの技能が必要であるととらえていることが分かった。

また，ピアノに関する意識の質問項目の「40 ピアノが弾けたら嬉しい」では88%，「41 ピアノの練習は必要だ」では91%，「42 ピアノの練習時間が増えた」では63%，「46 ピアノの授業は，役に立つ」では78%，「47 ピアノの授業を，もっとやりたい」では51%であった。ピアノの必要性に関する意識の得点平均は4.6であり，ピアノに関する意識の得点平均は3.8であった。ソルフェージュに関する意識の得点平均は2.9，ソルフェージュ授業に関する意識の得点平均は2.7であった。

第２回目の意識調査は，2018年６月に，ソルフェージュ授業第６回目に実施した。結果を図１に示す。「4.思う」と「5.とても思う」の合計は，第１回目の意識調査で50％未満であったソルフェージュに関する意識の質問項目の「34」～「39」で79％以上，ソルフェージュ授業に関する意識の質問項目の「48」～「53」で73％以上となった。

第３回目の意識調査は，ソルフェージュ授業終了後の2018年７月に実施した。「4.思う」と「5.とても思う」の合計は，ソルフェージュに関する意識の質問項目の「34」～「39」で85％以上，ソルフェージュ授業に関する意識の質問項目の「48」～「53」で79％以上となった。

５．意識調査から

３回の意識調査の得点平均を比べるために分散分析を行った。６月と７月の得点平均が４月の得点平均より有意に高いのは次の15の質問であった。４月，６月，７月の意識調査の得点平均を表２に示す。「19 ピアノの授業が好き」は有意であった（F(2,96) =4.288 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べ

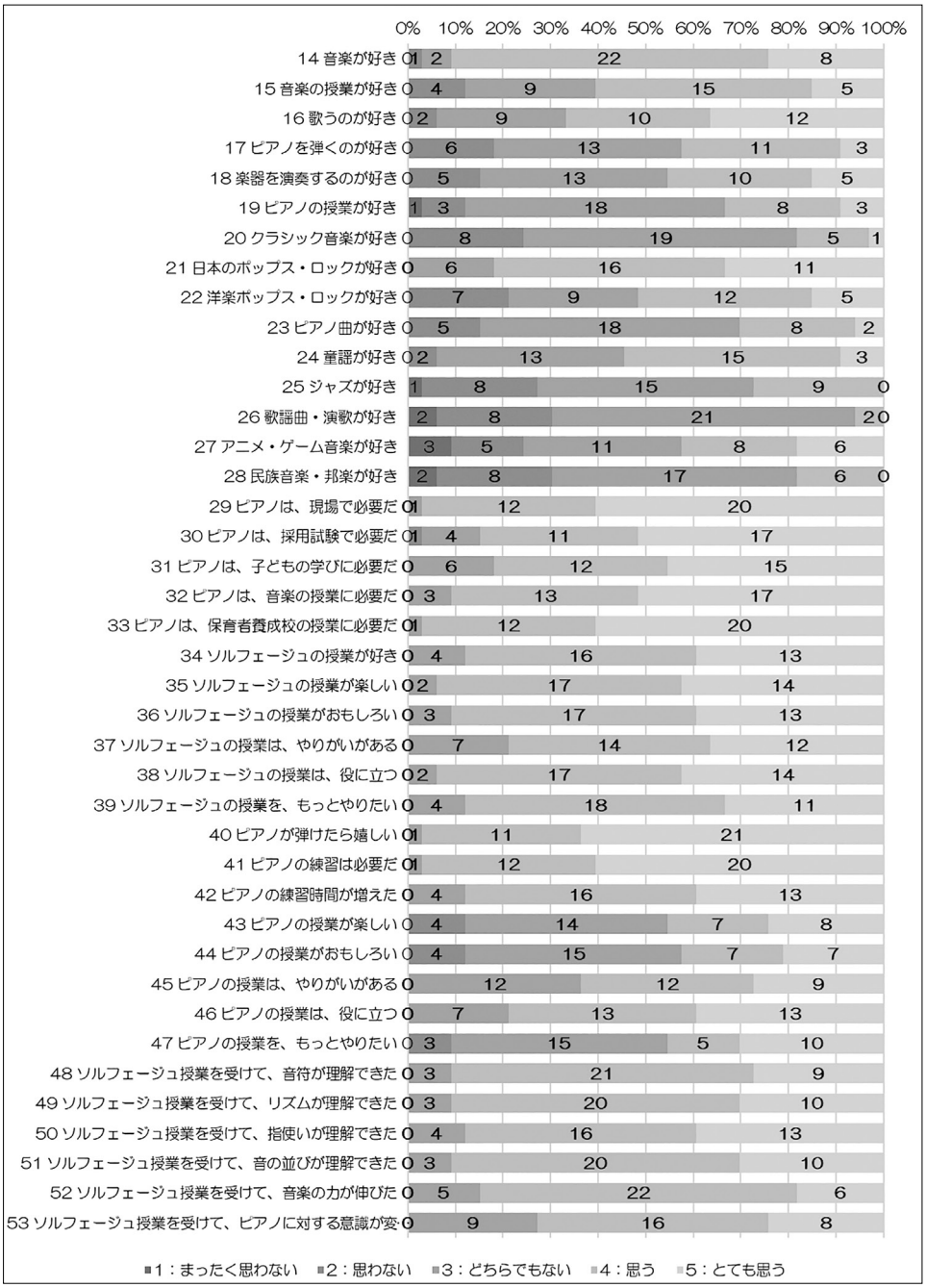

図１　第２回調査の回答数（６月）

表２　３回の意識調査の得点平均（標準偏差）

	４月		６月	７月
14 音楽が好き	4.12 (0.73)		4.12 (0.64)	4.09 (0.76)
15 音楽の授業が好き	3.55 (0.90)		3.64 (0.89)	3.64 (0.89)
16 歌うのが好き	3.91 (0.97)		3.97 (0.95)	3.88 (0.96)
17 ピアノを弾くのが好き	2.94 (0.86)		3.33 (0.88)	3.33 (0.85)
18 楽器を演奏するのが好き	3.27 (0.94)		3.45 (0.93)	3.58 (0.79)
19 ピアノの授業が好き	2.82 (0.68)	<	3.27 (0.87)	3.36 (0.85)
20 クラシック音楽が好き	2.76 (1.00)		2.97 (0.72)	3.06 (0.82)
21 日本のポップス・ロックが好き	3.94 (0.82)		4.15 (0.71)	4.06 (0.78)
22 洋楽ポップス・ロックが好き	3.27 (1.00)		3.45 (1.00)	3.64 (0.96)
23 ピアノ曲が好き	2.88 (0.85)		3.21 (0.78)	3.36 (0.82)
24 童謡が好き	3.48 (0.75)		3.58 (0.75)	3.55 (0.83)
25 ジャズが好き	2.64 (0.92)		2.97 (0.80)	3.00 (0.82)
26 歌謡曲・演歌が好き	2.24 (0.86)		2.70 (0.68)	2.61 (0.89)
27 アニメ・ゲーム音楽が好き	3.27 (1.32)		3.27 (1.20)	3.27 (1.23)
28 民族音楽・邦楽が好き	2.73 (0.97)		2.82 (0.80)	2.88 (0.85)
29 ピアノは，現場で必要だ	4.70 (0.58)		4.58 (0.56)	4.61 (0.55)
30 ピアノは，採用試験で必要だ	4.36 (0.89)		4.33 (0.81)	4.39 (0.78)
31 ピアノは，子どもの学びに必要だ	4.52 (0.66)		4.27 (0.76)	4.33 (0.69)
32 ピアノは，音楽の授業に必要だ	4.58 (0.70)		4.42 (0.66)	4.39 (0.70)
33 ピアノは，保育者養成校の授業に必要だ	4.61 (0.70)		4.58 (0.56)	4.36 (0.74)
34 ソルフェージュの授業が好き	2.76 (0.75)	<	4.27 (0.67)	4.48 (0.71)
35 ソルフェージュの授業が楽しい	2.79 (0.78)	<	4.36 (0.60)	4.58 (0.61)
36 ソルフェージュの授業がおもしろい	2.76 (0.75)	<	4.30 (0.63)	4.58 (0.56)
37 ソルフェージュの授業は，やりがいがある	2.85 (0.97)	<	4.15 (0.75)	4.52 (0.56)
38 ソルフェージュの授業は，役に立つ	2.97 (0.98)	<	4.36 (0.60)	4.55 (0.50)
39 ソルフェージュの授業を，もっとやりたい	2.94 (0.99)	<	4.21 (0.64)	4.36 (0.74)
40 ピアノが弾けたら嬉しい	4.52 (0.79)		4.61 (0.55)	4.55 (0.66)
41 ピアノの練習は必要だ	4.61 (0.65)		4.58 (0.56)	4.61 (0.60)
42 ピアノの練習時間が増えた	3.79 (0.78)	<	4.27 (0.67)	4.15 (0.87)
43 ピアノの授業が楽しい	3.12 (0.54)	<	3.58 (1.00)	3.70 (0.88)
44 ピアノの授業がおもしろい	3.12 (0.54)	<	3.52 (0.97)	3.64 (0.89)
45 ピアノの授業は，やりがいがある	3.58 (0.90)		3.91 (0.80)	4.00 (0.82)
46 ピアノの授業は，役に立つ	4.21 (0.78)		4.18 (0.76)	4.30 (0.80)
47 ピアノの授業を，もっとやりたい	3.48 (0.97)		3.67 (1.02)	3.82 (0.91)
48 ソルフェージュ授業を受けて，音符が理解できた	2.64 (0.85)		4.18 (0.58)	4.33 (0.64)
49 ソルフェージュ授業を受けて，リズムが理解できた	2.61 (0.86)	<	4.21 (0.59)	4.21 (0.64)
50 ソルフェージュ授業を受けて，指使いが理解できた	2.67 (0.88)	<	4.27 (0.67)	4.24 (0.70)
51 ソルフェージュ授業を受けて，音の並びが理解できた	2.64 (0.85)	<	4.21 (0.59)	4.24 (0.70)
52 ソルフェージュ授業を受けて，音楽の力が伸びた	2.73 (0.97)	<	4.03 (0.58)	4.09 (0.63)
53 ソルフェージュ授業を受けて，ピアノに対する意識が変わった	2.79 (1.02)	<	3.97 (0.72)	4.24 (0.79)

て「ピアノの授業が好き」が高いことが分かった。「34 ソルフェージュの授業が好き」は有意であった（F(2,96) =57.548 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュの授業が好き」が高いことが分かった。「35 ソルフェージュの授業が楽しい」は有意であった（F(2,96) =69.946 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュの授業が楽しい」が高いことが分かった。「36 ソルフェージュの授業がおもしろい」は有意であった（F(2,96) =74.123 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュの授業がおもしろい」が高いことが分かった。「37 ソルフェージュの授業は，やりがいがある」は有意であった（F(2,96) =41.428 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュの授業は，やりがいがある」が高いことが分かった。「38 ソルフェージュの授業は，役に立つ」は有意であった（F(2,96) =46.357 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュの授業は，役に立つ」が高いことが分かった。「39　ソルフェージュの授業を，もっとやりたい」は有意であった（F(2,96) =30.753 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュの授業を，もっとやりたい」が高いことが分かった。「42 ピアノの練習時間が増えた」は有意であった（F(2,96) =3.459 ,p<.05）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ピアノの練習時間が増えた」が高いことが分かった。「43 ピアノの授業が楽しい」は有意であった（F(2,96) =4.386 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ピアノの授業が楽しい」が高いことが分かった。「44 ピアノの授業がおもしろい」は有意であった（F(2,96) =3.514 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ピアノの授業がおもしろい」が高いことが分かった。「49 ソルフェージュ授業を受けて，リズムが理解できた」は有意であった（F(2,96) =55.692 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュ授業を受けて，リズムが理解できた」が高いことが分かった。「50 ソルフェージュ授業を受けて，指使いが理解できた」は有意であった（F(2,96) =47.791 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュ授業を受けて，指使いが理解できた」が高いことが分かった。「51 ソルフェージュ授業を受けて，音の並びが理解できた」は有意であった（F(2,96) =52.203 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュ授業を受けて，音の並びが理解できた」が高いことが分かった。「52 ソルフェージュ授業を受けて，音楽の力が伸びた」は有意であった（F(2,96) =34.663 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュ授業を受けて，音楽の力が伸びた」が高いことが分かった。「53 ソルフェージュ授業を受けて，ピアノに対する意識が変わった」は有意であった（F(2,96) =26.845 ,p<.01）。Tukey（T）を用いた多重比較によれば，第１回と第２回，第１回と第３回の間に有意差があり，第２回と第３回は第１回に比べて「ソルフェージュ授業を受けて，ピアノに対する意識が変わった」が高いことが分かった。これら以外の得点平均に有意な差は認められなかった。

６．ソルフェージュ授業の様子

第１回目の授業では，教員が鳴らすスライドホイッスルの音を身体的に表現することで，音の高低差を感覚的に捉えることを到達目標とした。学生は，スライドホイッスルという楽器やその楽器から醸し出される音色に非常に興味を持った様子であった。中には教員が吹くスライドホイッスルの演奏をまねて思わず歌いだしてしまう学生もおり，楽しみながら聞いている姿が見られた。音の高低差をスライドホイッスルで表現するには，スライドホイッスルのスライドを上下させる必要があるのだが，そのスライドの動きに注視している様子も見られた。また，学生が自分たちでスライドホイッスルを鳴らす演習の際に，音の出し方や息の吹き方を工夫しながら笑顔で参加している姿も見られた。教員が演奏したスライドホイッスルの楽譜を図２に示す。

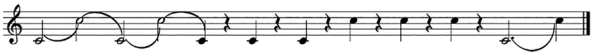

図２　スライドホイッスルの楽譜

第２回目の授業では，第１回目に感覚的に捉えた音の高低と鍵盤との関係を知ることを到達目標とした。授業の様子を写真１に示す。音の高低と鍵盤との関係を知るために，

写真１　第２回目の授業の様子

黒鍵のない大型の鍵盤図を縦向きにして置いてある。一人の学生が手で鍵盤図を上下になぞって，音の高低差を４名の学生に伝えている。その手の上下の動きに合わせて，４名の学生がスライドホイッスルを吹いているところである。

第３回目の授業では，鍵盤と楽譜，音の並びを理解することを到達目標とした。授業の様子を写真２に示す。鍵盤と楽譜，音の並びの関係を知るために，黒鍵のない大型の鍵盤図を横向きにして置いてある。楽譜上では，音の高低を「上下」で書き表すが，鍵盤上では，音の高低を「左右」で表すためである。学生が，音の並びや高低を意識しながら黒鍵のプレートを並べて，ピアノの鍵盤をつくっているところである。学生はお互いに声を掛け合いながら協力して，ピアノの鍵盤を完成させていた。また，音の高低の理解をさらに深めるために，子どもにも人気があり華やかな印象を受けるグリッサンドという奏法にも挑戦してもらった。グリッサンドは，手の平を裏返しにした状態で指先を鍵盤にあて，一音一音をつなげて音が流れるように指先を滑らせて弾く奏法のことであるが，学生は自分たちが弾くグリッサンドの音の華やかさに，感嘆の声を上げながら喜んで挑戦していた。

写真２　第３回目の授業の様子

第６回目の授業では，指番号に反応して指を正しく動かすことを到達目標とした。授業の様子を写真３に示す。これは，指番号付きの５本の積み木を使って指番号通りに指を動かす，という運指の訓練をしているところである。

写真３　第６回目の授業の様子

積み木を並び替えて指番号を決める人と，指を動かす人のペアで行っており，指番号と動かす指が一致していない学生のために実施している訓練である。ゲーム感覚を取り入れて，一人一人の学生が楽しみながら実践できるよう工夫している。学生は積み木に示されている指番号を声に出しながら，夢中になって指を動かしていた。

７．考察

（１）ソルフェージュ授業開始時の実態と意識

第１回目の調査の結果から，「11 ピアノを習っていた期間」の質問に「①０年」と回答したのは52％で５割以上の学生が過去にピアノを習った経験のないピアノ未習者であることが分かった。

「4.思う」と「5.とても思う」の合計は，ピアノの必要性に関する意識の質問項目の「29 ピアノは，現場で必要だ」では94％，「30 ピアノは，採用試験で必要だ」では79％，「31 ピアノは，子どもの学びに必要だ」では91％，「32 ピアノは，音楽の授業に必要だ」では88％，「33 ピアノは，保育者養成校の授業に必要だ」では94％となっており，ピアノ未習者を含めた８割以上の学生が保育や教育の現場ではピアノの技能が必要であるととらえていることが分かった。また，ピアノに関する意識の質問項目の「40 ピアノが弾けたら嬉しい」では88％，「41 ピアノの練習は必要だ」では91％，「42 ピアノの練習時間が増えた」では63％，「46 ピアノの授業は，役に立つ」では78％，「47 ピアノの授業を，もっとやりたい」では51％であった。ピアノの必要性に関する意識の得点平均は4.6であり，ピアノに関する意識の得点平均は3.8であった。ピアノ未習者が52％となっており，現在，ピアノを習っている学生も12％であることから，８割以上の学生が保育や教育の現場ではピアノの技能が必要であるととらえている一方で，ピアノ授業に対する学修意欲は決して

高いとは言えず，学生の意識に差があることが分かった。多くの学生がピアノの学修に対して不安を持っているものと推測される。

ソルフェージュに関する意識の得点平均は2.9，ソルフェージュ授業に関する意識の得点平均は2.7であった。半数以上の学生がソルフェージュの学修に対して不安を持っているものと推測される。

（2）ソルフェージュ授業第６回目の意識変化

第２回目の調査の結果から,「4.思う」と「5.とても思う」の合計が，第１回目の調査と比べ50％を超えるものは，15から28に増えたことが分かった。ソルフェージュに関する意識の質問項目の「34 ソルフェージュの授業が好き」では88％,「35 ソルフェージュの授業が楽しい」では94％,「36 ソルフェージュの授業がおもしろい」では91％,「37 ソルフェージュの授業は，やりがいがある」では79％,「38 ソルフェージュの授業は，役に立つ」では94％,「39 ソルフェージュの授業を，もっとやりたい」では88％であった。「34」「35」「36」「37」「38」「39」の全ての２変量間に強い相関が認められることからも，多くの学生がソルフェージュ授業に積極的に参加し，音楽の基礎力を高めたいという学びへの意識が強まったことが分かった。ソルフェージュに関する意識の相関係数を表３に示す。

また，ソルフェージュ授業に関する意識の質問項目の「48 ソルフェージュ授業を受けて，音符が理解できた」では91％,「49 ソルフェージュ授業を受けて，リズムが理解できた」では91％,「50 ソルフェージュ授業を受けて，指使いが理解できた」では89％,「51 ソルフェージュ授業を受けて，音の並びが理解できた」では91％,「52 ソルフェージュ授業を受けて，音楽の力が伸びた」では85％,「53 ソルフェージュ授業を受けて，ピアノに対する意識が変わった」では73％であった。「48」「49」「50」「51」「52」「53」の全ての２変量間に強い相関が認められることからも，ソルフェージュ授業を受けることにより，学生がピアノ学修やピアノ以外の音楽にも共通して役立つ音楽の基礎力が高まったと実感したものと考えられる。ソルフェージュ授業に関する意識の相関係数を表４に示す。

ソルフェージュ授業開始時には，半数以上の学生がソルフェージュの学修に対して不安を持っており，第２回目の調査の意識と比較した。その結果，ソルフェージュの授業

表３　ソルフェージュに関する意識の質問の相関係数

	34	35	36	37	38
34 ソルフェージュの授業が好き	—				
35 ソルフェージュの授業が楽しい	.960**	—			
36 ソルフェージュの授業がおもしろい	.954**	.967**	—		
37 ソルフェージュの授業は，やりがいがある	.843**	.812**	.842**	—	
38 ソルフェージュの授業は，役に立つ	.853**	.851**	.847**	.903**	—
39 ソルフェージュの授業を，もっとやりたい	.886**	.902**	.895**	.784**	.820**

注）**：p＜.01

表４　ソルフェージュ授業に関する意識の質問の相関係数

	48	49	50	51	52
48 ソルフェージュ授業を受けて，音符が理解できた	—				
49 ソルフェージュ授業を受けて，リズムが理解できた	.916**	—			
50 ソルフェージュ授業を受けて，指使いが理解できた	.895**	.886**	—		
51 ソルフェージュ授業を受けて，音の並びが理解できた	.916**	.887**	.923**	—	
52 ソルフェージュ授業を受けて，音楽の力が伸びた	.877**	.883**	.888**	.875**	—
53 ソルフェージュ授業を受けて，ピアノに対する意識が変わった	.830**	.819**	.848**	.839**	.871**

注）**：p＜.01

表５　ピアノに関する意識の質問の相関係数

	40	41	42	43	44	45	46
40 ピアノが弾けたら嬉しい	—						
41 ピアノの練習は必要だ	.782**	—					
42 ピアノの練習時間が増えた	.420**	.482**	—				
43 ピアノの授業が楽しい	.395**	.423**	.501**	—			
44 ピアノの授業がおもしろい	.388**	.398**	.514**	.903**	—		
45 ピアノの授業は，やりがいがある	.467**	.475**	.405**	.759**	.762**	—	
46 ピアノの授業は，役に立つ	.548**	.590**	.383**	.582**	.576**	.640**	—
47 ピアノの授業を，もっとやりたい	.513**	.509**	.492**	.718**	.726**	.713**	.713**

注）**：p＜.01

についての全ての質問項目で，第２回目の調査の意識の得点平均がソルフェージュ授業開始時の第１回目の調査の得点平均より有意に高くなっていた。「34 ソルフェージュの授業が好き」(F(2,96)= 57.548, p<.01)，「35 ソルフェージュの授業が楽しい」(F(2,96)= 69.947, p<.01)，「36 ソルフェージュの授業がおもしろい」(F(2,96) = 74.124, p<.01)，「37 ソルフェージュの授業はやりがいがある」(F(2,96) = 41.428, p<.01)，「38 ソルフェージュの授業は役に立つ」(F(2,96) = 46.358, p<.01)，「39 ソルフェージュの授業をもっとやりたい」(F(2,96)= 30.754, p<.01)。

このことから，体を動かしたり楽器を演奏したり，あそびと組み合わせたり，リズムを感じたり，歌の楽しさを感じたりする楽しいソルフェージュの授業を体験したことにより，ソルフェージュの授業に関する不安が減少し，楽しさやおもしろさを感じ，学修意欲が高くなったものと考えられる。

ソルフェージュ授業開始時には，ソルフェージュ授業に関する意識の得点平均は2.7であり，第２回目の調査の意識と比較した。その結果，次のソルフェージュ授業に関する意識の質問項目で，第２回目の調査の意識の得点平均がソルフェージュ授業開始時の第１回目の調査の得点平均より有意に高くなっていた。「49 ソルフェージュ授業を受けて，リズムが理解できた」(F(2,96) = 55.693, p<.01)，「50 ソルフェージュ授業を受けて，指使いが理解できた」(F(2,96) = 47.792, p<.01)，「51 ソルフェージュ授業を受けて，音の並びが理解できた」(F(2,96)= 52.204, p<.01)，「52 ソルフェージュ授業を受けて，音楽の力が伸びた」(F(2,96) = 34.664, p<.01)，「53 ソルフェージュ授業を受けて，ピアノに対する意識が変わった」(F(2,96)= 26.845, p<.01)。

このことから，体を動かしてリズムを感じたり，指使いの訓練や音の高低差を体の動きで表したりするあそびを取り入れたりしたことで，ソルフェージュに関する知識・理解が深まったものと考えられる。その知識・理解が深まったことで，音楽の基礎力が伸びたり，ピアノに対する学びへの意識が変わったりしたものと考えられる。

また，ピアノに関する意識の質問項目の「40 ピアノが弾けたら嬉しい」では97%，「41 ピアノの練習は必要だ」では97%，「42 ピアノの練習時間が増えた」では88%，「45 ピアノの授業は，やりがいがある」では64%，「46 ピアノの授業は，役に立つ」では79%であった。ソルフェージュ授業開始時には，８割以上の学生が保育や教育の現場ではピアノの技能が必要であるととらえているが，学生がピアノの学修に対して不安を持っており，第２回目の調査の意識と比較した。その結果，ピアノに関する「42」「43」「44」の質問項目で，第２回目の調査の意識の得点平均がソルフェージュ授業開始時の第１回目の調査の得点平均より有意に高くなっていた。

これら以外の「40」「41」「45」「46」「47」に有意な差はみられなかった。「42 ピアノの練習時間が増えた」(F(2,96) = 3.459, p<.05)，「43 ピアノの授業が楽しい」(F(2,96)= 4.386, p<.05)，「44 ピアノの授業がおもしろい」(F(2,96) = 3.514, p<.05)。

このことから，楽しいソルフェージュ授業を体験し，ソルフェージュに関する知識・理解が深まったことにより，ピアノ学修に関する不安が減少し楽しさやおもしろさを感じ，練習意欲が高くなったものと思われる。ピアノに関する意識の相関係数を表５に示す。

（３）ソルフェージュ授業終了後の意識変化

第３回目の調査の結果から，「4.思う」と「5.とても思う」の合計が，第１回目の調査と比べ50%を超えるものは，28から30となり，２つ増えたことが分かった。それは，ピアノの授業に関する意識の質問項目の「43 ピアノの授業が楽しい」の55%，「47 ピアノの授業を，もっとやりたい」の61%であったことから，学生が全９回のソルフェージュ授業を通して学んだ音楽の基礎力を，ピアノ学修の際に生かすことができるようになったと実感したものと考えられる。そのことから，ピアノの授業に対する意欲が高まったものと思われる。

音楽に関する意識の質問項目で強い相関が認められるのは，「17 ピアノを弾くのが好き」と「19 ピアノの授業が好き」，「20 クラシック音楽が好き」と「23 ピアノ曲が好き」であった。ピアノの必要性に関する意識の質問項目では，「29 ピアノは，現場で必要だ」と「32 ピアノは，音楽の授業に必要だ」，「30 ピアノは，採用試験で必要だ」と「32 ピアノは，音楽の授業に必要だ」，「32 ピアノは，音楽の授業に必要だ」と「33 ピアノは，保育者養成校の授業に必要だ」であった。将来志望する職業にピアノの技能が必要であり，ピアノの学修は欠かせないものであることをきちんと認識しているものと考えられる。

ソルフェージュに関する意識の質問項目では，「34」「35」「36」「37」「38」「39」の全ての２変量間で強い相関が認められた。ピアノに関する意識の質問項目では，「40 ピアノが弾けたら嬉しい」と「41 ピアノの練習は必要だ」，「43 ピアノの授業が楽しい」と「44 ピアノの授業がおもしろい」「45 ピアノの授業は，やりがいがある」「47 ピアノの授業を，もっとやりたい」，「44」と「45」「47」，「45」と「47」，「46 ピアノの授業は，役に立つ」と「47」で強い相関が認められた。

ソルフェージュ授業に関する意識の質問項目では「48」「49」「50」「51」「52」「53」の全ての２変量間で強い相関が認められた。

ソルフェージュ授業を受けることにより，学生がピアノの学修やピアノ以外の音楽にも共通して役立つ音楽の基礎力がさらに高まったと実感したものと考えられる。このことから，第２回目の調査で高まった学びへの意識が第３回目の調査においても高いまま保持されていることが分かった。

ソルフェージュ授業開始時には，半数以上の学生がピアノの学修に対して不安を持っていたが，ソルフェージュ授業を通してピアノの授業が楽しい，ピアノの授業をもっとやりたい，というピアノに対する学修意欲が高まったことが示唆された。

（4）学生の声による比較

第３回目の調査の33件の「学生の声（感想）」から取り出された単語の数を図３に示す。「楽し」が18件，「音符」が17件，「ピアノ」が15件，「ソルフェージュ」が13件，「理解」が12件となっており，半数以上の学生がソルフェージュの授業を楽しいと感じていることが推定でき，意識調査の結果とも一致している。「ソルフェージュ」が13件と４番目に多く，「理解」が12件と５番目に多くなっている。

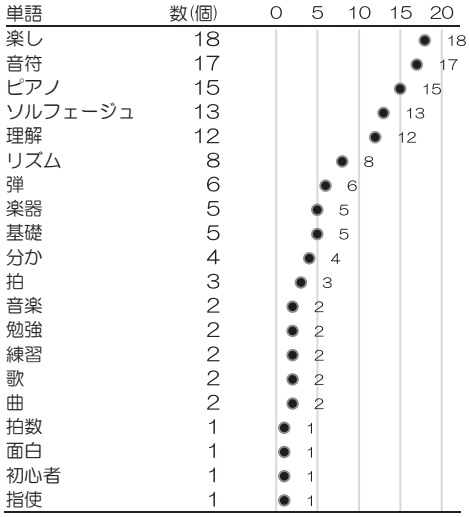

図3　学生の声から取り出した単語の数

意識調査では，ソルフェージュに関する意識とソルフェージュ授業に関する意識の質問項目の全ての２変量間で強い相関が認められたことから，図４に示すとおり，ソルフェージュ授業は，分かりやすく「理解」しやすい授業であることから「楽しい」と感じ，そのことがソルフェージュ授業に積極的に取り組むことに繋がっていることが示唆される。

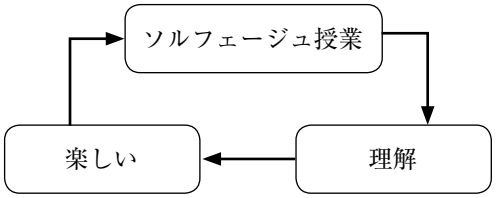

図４　学生の意識の流れ

８．おわりに

学生の意識調査からは，８割以上の学生が保育や教育の現場ではピアノの技能が必要であるととらえていることが分かった。その一方で，ソルフェージュ授業開始時にはピアノ授業に対する学修意欲が低く，ピアノやソルフェージュの学修に対して不安を持っていた多くの学生ではあったが，ソルフェージュ授業に参加することを通して，音楽を感じる力や聴く力，音感やリズム感，読譜力などの音楽の基礎力が高まったことが明らかになった。音楽の基礎力が高まり，ソルフェージュに関する知識・理解が深まったことから，苦手意識を持っていたピアノ授業に関する意識が楽しいと感じる方向に変化し，ピアノの練習意欲や学修意欲が高くなったものと考えられる。

ピアノの練習意欲や学修意欲が高くなった理由は，ソルフェージュ授業の中で体を動かしてリズムを感じたり，楽器を演奏してリズムを感じたりしたことや，指使いの訓練や音の高低差を体の動きで表したりするあそびを取り入れたりしたことで，音楽は楽しいものであると実感できたことにもあると言えるであろう。ソルフェージュ授業にしろ，ピアノの授業にしろ，学生の学修意欲を高めるためには，楽しさや面白さを大いに実感し，不安な気持ちを減少させる必要があることが分かった。

しかしながら，ソルフェージュ授業に関する意識の質問項目の「48 ソルフェージュ授業を受けて，音符が理解できた」については，３回の意識調査の得点平均を比べるために行った分散分析において，４月，６月，７月の得点平均に有意差がなかったことから，学生は読譜に関する知識・理解の深まりをあまり実感していないことが分かった。ピアノの学修において，読譜力を身につけることは大切である。なぜならば，読譜力があれば楽譜を見ることを苦痛なことと感じることなく，ピアノ曲の譜読みに臨むことができるからである。読譜力があれば新しい曲に取り組む際の譜読みに時間がかからないため，練習時間の短縮にもつながり効率の良い練習を積むことができるはずである。

また，１年次秋学期のソルフェージュ授業は，ソルフェージュを行うのではなく，ピアノ授業のサポートをする形になっているという現状がある。２年次以降のソルフェー

ジュ授業は実施されないため，音楽の楽しさや面白さを実感する機会が減るなかで学生の学修意欲の継続をどのように図っていくのか，という点が今後の課題となるであろう。

付記

本研究は，岐阜女子大学大学院に提出した修士論文の一部について，加筆修正したものである。

謝辞

本研究を進めるにあたり，丁寧なご指導や貴重なご助言を賜りました岐阜女子大学大学院文化創造学研究科の横山隆光教授に心より感謝申し上げます。

引用文献

平井李枝(2016)．教員養成課程学生に対するピアノ「弾き歌い」指導法の研究　宇都宮大学教育学部教育実践紀要，２，91-98.

畠澤郎(2012)．わが国における音楽教育の課題　椙山女学園大学教育学部紀要，５，241-247.

河合環(2002)．学校外におけるソルフェージュ指導の現状と問題点－指導教師への質問紙調査の分析を通して－音楽教育学，32-1，11-16.